

2019年6月7日(金)

未来への扉

高等特別支援学校支援部 121号



目指す力(スキル)の変更を!

大阪教育大学名誉教授で、大阪医科大学LDセンター顧問でもある竹田契一先生に

「就労生活支援を見通した在学中の指導・支援」

のタイトルで本校において講演をして頂いたことがあります。下はその資料の一部です。

思春期はソーシャルスキルから

1. 小学校はまずアカデミックスキルを徹底
2. 幼小中学校はコミュニケーションスキルを家庭で行う
3. 中学校以降の中心はソーシャルスキルの確立
(友達関係、社会のルールなど)
4. 周りに合わせる力、周りの気持ちの読み取りなど
5. 高校生では就労を視野にライフスキルの導入も

ここで、4つのスキルを少し解説します。

アカデミックスキル……ここでは読み書き計算など基礎学力
コミュニケーションスキル……会話を中心とした気持ちのやりとりをする力

ソーシャルスキル……日常生活や人間関係の中で適切な言動をとる実践的な力

ライフスキル……生活(料理、お金、衛生等)、余暇、異性との付き合い方など、自立をかなえる力



図1

社会に出る一步手前のこの3年間に付けたい力(スキル)を考えてみましょう。会社場面での例でお話します。左下の図1の女性は、上司に怒られてしまいました。図2には上手に振舞っている女性がいます。2人の違いはソーシャルスキル、つまり人間関係の中で適切な言動をとる実践的な力の違いです。

「お礼を言う」も言葉だけではありません。図2の女性の言動を細かく見ると下のようになります。

- ① 自分のコピー作業を中断する
- ② 上司に身体の正面を向ける
- ③ 両手で受け取る
- ④ 笑顔でお礼を言う

こんなに完璧を求められる訳ではないのですが、ひとつひとつが親切にしてくれる相手を敬う言動となります。こういった力は周囲を見ながら自然と身に着ける生徒も少数ながらいます。しかし、多くの生徒にとっては学校生活全般で取り組み、実際に練習しながら身に付けていくことになります。

小中学校までは、アカデミックスキルを徹底してきたことと思います。このアカデミックスキルは、全てのスキルの土台になります。その土台の上に他のスキルが積み上がります。

逆に言うと、社会で生きていく為に必要な力を積むための土台作りを小中学校で充実させてきた事になります。(図3)

しかしこれ以上、土台だけを作り続ける訳にはいきません。社会に出る直前の今、学力が目標ではないのです。

図1の女性が社会で円滑に過ごしていくには、これ以上の学力ではなく、ソーシャルスキルが必要です。

ここで“目指す力(スキル)の変更”があります。

“変更”が苦手な生徒も多いことと思います。今まで真面目にプリント学習等で学力をつけようと努力してきた生徒達にとってこの“変更”は簡単ではありません。

だからこそ、まず保護者の方々にご理解頂き、“変更”がスムーズにできるようご支援をお願いしたいと思います。



図2

ソーシャルスキル

ソーシャルスキルは、社会技能や社会的スキルなどと呼ばれる事や、対人スキルと同じ意味で使われる事もあり、はっきりとは決まっていません。コミュニケーションスキルが含まれることもあります。

WHOではライフスキルの中の一部としています。

人間関係をうまく築けない子が社会全体に増えており、SST(ソーシャルスキルトレーニング)がどこにおいても必要になってきています。

下にソーシャルスキルの例(これだけではありませんが)を書き出してみました。参考にしてください。

- ① 基本のソーシャルスキル
あいさつをする、ルールやマナーを守る、時間や順番を守る、基本的な生活習慣・身だしなみ など
- ② 対人のソーシャルスキル
会話をする、人の気持ちを考える、自分の意見を上手に伝える、説明するなど
- ③ 感情のソーシャルスキル
感情に気付く、コントロールする、我慢する、上手に伝える、プラス思考、ストレス解消など

図3

土台はできている! 次のステップへ

